

## 録音スタジオの設置及び配線作業等の仕様について

## 1 オペレーターデスクの仕様について

以下の物品を設置可能な仕様のオペレーターデスクを調達又は製作し、設置すること。

落札後、本学担当者と仕様及び設置位置について十分に協議を行い、両者十分に合意した上で納入すること。

## (1) デスクのサイズ

|    |                                                                                                                                                         |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 幅  | 「(2) 天板上に設置する物品」に挙げる物品が余裕を持って設置でき、なおかつ A4 サイズの紙などを縦に置いて記述作業を行えるスペースを確保できるサイズにすること。<br>ただし、デスクの設置後、右側から幅 700mm の物を通せるように、部屋の右端から 750mm の幅を確保できるサイズにすること。 |
| 奥行 | 「(2) 天板上に設置する物品」に挙げる物品が余裕を持って設置でき、なおかつ A4 サイズの紙などを縦に置いて記述作業を行えるスペースを確保できるサイズにすること。                                                                      |
| 高さ | 700～800mm程度                                                                                                                                             |

## (2) 天板上に設置する物品 (※赤字は本入札に含まれていない別途調達物品)

- ・ Apple : Magic Keyboard
- ・ Apple : Magic Mouse
- ・ Apple : Magic Trackpad
- ・ Avid : S1 × 2台
- ・ LG : 27UQ85RV-W × 2台 ※ディスプレイは寝かせたり、立たせたり角度調整できる仕様にする。

## (3) 天板下に設置する物品

- ・ M-AUDIO : Keystation 88 (※赤字は本入札に含まれていない別途調達物品)

※ GLORIOUS「Sound Desk Pro」のように、天板すぐ下に引き出せる板を設置し、その上に M-AUDIO「Keystation 88」を設置できるようにすること。

## 2 音響ラックの仕様について

下記【音響ラック1】及び【音響ラック2】に挙げる機器等を格納可能な仕様の音響ラックを調達し、設置すること。また、ストッパー機能付きキャスターがあり、他の部屋に移動させて使用できる仕様にする。

各機器は、実用性を考慮した上で各音響ラックへ格納すること。また、格納の際は熱トラブルが起こらないよう排熱を考慮し、必要に応じて機器同士の間隔を空けるなど、安全に配慮して設置すること。

落札後、本学担当者と上記に明記されていない内容も含めて仕様について十分に協議を行い、両者十分に合意した上で納入すること。

### 【音響ラック1】

格納機器（※赤字は本入札に含まれていない別途調達物品）

- ・ Avid : HDX Thunderbolt 3 Chassis Rack
- ・ Avid : MTRX II
- ・ MILLENNIA : HV-3D-8 × 2 台
- ・ RME : Octamic II × 2 台
- ・ TASCAM : CG1800
- ・ TASCAM : AV-P250S × 1 台

### 【音響ラック2】

格納機器（※赤字は別途調達物品）

- ・ Apple : Mac Studio
- ・ Sanwa SUPPLY : USB-3TCH38BK
- ・ Pioneer : BDR-XS08MB-S
- ・ Sandisk : SDSSDE81-4T00-J25
- ・ Studio Equipment : 694A
- ・ Blackmagic Design : UltraStudio 4k mini
- ・ Blackmagic Design : Teranex Mini SDI Distribution 12Gs
- ・ Studio Equipment : 610L2-C
- ・ Studio Equipment : 677CMD
- ・ TASCAM : AV-P250S × 3 台

## 3 スピーカーの設置及び配線等について

「別紙1\_調達機器一覧」にある GENELEC「8330AP×11」「7070AP×1」を 7.1.4cn の Dolby Atmos 方式に設置すること。配置位置は「別紙3\_録音スタジオ\_レイアウト図」を参照のこと。

ハイトスピーカー以外は、調達機器一覧にある GENELEC「8000-409B」、別途調達物品である「8040-408」を使用してスピーカー設置を行うこと。

ハイトスピーカーは、天井の強度や安全面の確保から、天井に吊したり、高さのあるスピーカースタンドに設置したりすることが不可能なため、以下の仕様を満たす Dolby Atmos 用天吊りアルミフレームの設置を行うこと。

### 【仕様内容】

- ・ ユキ技研製レコフレーム
- ・ 中重構造フレーム F48MB シリーズ使用（黒アルマイト仕上げ）
- ・ 最長部分（2.5m 単体）での曲げ強さ ≧ 750kg
- ・ たわみ算出（2.5m 単体）、1kg センター荷重時 ≧ 0.75mm
- ・ たわみ算出（2.5m 単体）、自重によるたわみ ≧ 0.48mm
- ・ 総重量（図面より算出、SP 含まず） ≧ 400kg
- ・ 連結部（T ロック結合）の平均破断荷重/破壊モーメント/滑り荷重  
F48MB
  - ・ 引っ張り 4050(kgf)、39.7(kN)

- ・縦モーメント 150(kgf・m)、1470(N・m)
- ・横モーメント 75(kgf・m)、735(N・m)
- ・滑り荷重 300(kgf)、2.94(kN)
- ・単体、単独での設置に優れ、建物の躯体に依存せず設置が可能であること。
- ・高耐荷重で、場所を取らないフレーム構造、フレーム配置を変更しやすいものであること。
- ・コントロールルームに既設のエアコン等の設備に干渉しないものであること。また、送風の妨げにもならないこと。
- ・将来的にスピーカーの配置や運用状況が変更した場合にも柔軟に対応できるような設計とすること。
- ・フレームの変更、追加が容易にできるものであること。なお、その際の施工は受託者によることを想定している。
- ・音の特性に優れており、Dolby Atmos環境に適応した設計であること。
- ・コントロールルームは OA フロアではないため、配線にあたってはケーブルモールを使用するか、本学担当者と協議の上、床下に配線用の穴を必要最小限空けて配線すること。また、配線経路に関しても本学担当者と協議の上、確定すること。

【本項において設置するスピーカー及びフレームの保守について】

- ・納入後5年間は無償で修理に応じること。
- ・2年に1回、5年間で計2回の保守点検を行うこと。保守点検の内容の詳細は落札後別途協議とするが、フレームの保守点検は、安全性に問題が生じていないか確認することを主目的とし、スピーカーの保守点検は音響測定を実施することを想定している。なお、点検完了後には点検報告書を2部提出すること。

#### 4 録音スタジオとコントロールルーム間の配線について

「別紙3\_録音スタジオ\_レイアウト図」及び「別紙4\_録音スタジオ\_プロット図」を参照し、録音スタジオのコネクタパネル設置箇所（2箇所）とコントロールルームの北側の床下間の配線を行うこと。

必要な配線の種類、本数については「5 コネクタパネルの設置とパネルの仕様について」を参照のこと。

配線に必要なケーブルの調達も工事に含むこと。

使用するケーブルは、本学担当者と十分に協議の上確定すること。

接続先が明確に判別できるよう各ケーブルにタグを付けること。

#### 5 コネクタパネルの設置とパネルの仕様について

コネクタパネル用壁穴の仕様と位置は「別紙4\_録音スタジオ\_プロット図」の通りである。

各コネクタパネルは、以下のコネクタを接続できるようにすること。

##### コントロールルーム北側コネクタパネル

- ・XLR ㇵ × 4
- ・XLR ㇵ × 16
- ・マルチ(16ch) × 1
- ・D-sub 25 pin × 4
- ・BNC × 4

- ・ LAN × 2

#### コントロールルーム南東側コネクタパネル

- ・ XLR メス × 4
- ・ XLR メス × 16
- ・ マルチ(16ch) × 1
- ・ D-sub 25 pin × 4
- ・ BNC × 4
- ・ LAN × 2

各コネクタパネルの各コネクタからコントロールルームの床下へ配線すること。

各コネクタの接続先が明確に判別できるよう、コネクタパネルと、コントロールルームの床下への配線ケーブルに対し、タグを付けること。

### **6 コネクタパネルから各機器への配線及び機器間の配線について**

「別紙5\_録音スタジオ\_配線図1」及び「別紙6\_録音スタジオ\_配線図2」に従って配線作業を行うこと。

配線に必要な各種ケーブルについて、「別紙1\_調達機器等一覧」に含まれていない場合はその調達も行うこと。なお、その際調達する各種ケーブルは、本学担当者と十分に協議の上確定すること。

コントロールルームはOAフロアではないため、配線にあたってはケーブルモールを使用するか、担当者と協議の上、床下に配線用の穴を必要最小限空けて配線すること。また、配線経路に関しても担当者と協議の上、確定すること。

接続先が明確に判別できるよう各ケーブルにタグを付けること。

### **7 各機器の電源ケーブルの配線について**

「別紙7\_録音スタジオ\_電力分配図」に従って、電源ケーブルの配線工事を行うこと。

コントロールルームはOAフロアではないため、配線にあたってはケーブルモールを使用するか、本学担当者と協議の上、床下に配線用の穴を必要最小限空けて配線すること。また、配線経路に関しても本学担当者と協議の上、確定すること。

配線に必要な電源コードの調達も行うこと。なお、調達する電源ケーブルは、担当者と協議の上確定すること。

接続先が明確に判別できるよう各ケーブルにタグを付けること。

### **8 その他**

不明な点や、本仕様書に記載のない事項については、本学担当者と十分に協議の上作業を実施すること。